

## ●東京大学史料編纂所 共同利用・共同研究拠点

### 一般共同研究「『覚禅鈔』諸本の調査研究」による公開研究会（第二回）

東京大学史料編纂所では、2010年度より「日本史史料の研究資源化に関する研究拠点」の事業として、所内外の研究者による「共同利用・共同研究」の研究課題の募集を開始しました。今年度、一般共同研究課題に採択された「『覚禅鈔』諸本の調査研究―東海・関東所在の蒐集史料を中心に―」（研究代表者・上川通夫）では、下記要領にて研究会を開催いたします。

今回は、あまり注目されていない写本グループである千光寺本を紹介します。鎌倉末期（嘉暦4年～元徳2年）、知多半島にあった千光寺にて書写され、現在では名古屋市博物館に8巻、大御堂寺に18巻所蔵されるのがまとまったものです。名古屋市博物館に会場をお借りし、ささやかな展示も企画いたしました。

日時：2011年1月22日（土）13:30～16:30

場所：名古屋市博物館 1階 展示説明室

報告：

井上 佳美 「『覚禅鈔』千光寺本について」

菊地 大樹 「『覚禅抄』阿弥陀法をめぐって  
―紅顔梨色阿弥陀像に見る東台両密交流の一側面―」

司会：上川 通夫

※当日、研究会の会場にて、名古屋市博物館所蔵『覚禅鈔』千光寺本を展示します。

また2階常設展示室にて、1月26日(水)～2月20日(日)にも出陳予定です。

参考文献：井上佳美「千光寺本『覚禅鈔』についての一考察」（『愛知県史研究』13、2009年）  
名古屋市博物館編『館蔵品図録』1（1982年）

名古屋市博物館

〒467-0806 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1

地下鉄桜通線桜山駅下車徒歩5分

<http://www.museum.city.nagoya.jp/>